

Title	多文化コミュニケーション1
Credit	2単位
Outline of Class	文化とコミュニケーションの関係性について学ぶ。各国の文化的相違が、ある事象に対してどのように異なったコミュニケーションを生み出すのか。また、文化の類似性が同様のコミュニケーションを導き出すのか。様々な事例を通して検証する。さらに、文化が社会制度に与える影響についても学ぶ。 グローバル化時代には、異なる価値観や世界観を互いに理解し、認め合い、互いが協力して諸問題を解決し、仕事を組み立てられる人材が求められており、分野を超えて、そのような人材育成は急務な課題である。
Aims	1. 講義およびディスカッションでは、学生全員が自らの考えを積極的に発言し、授業に貢献すること。またグループワークではリーダーシップをとるよう努力すること。 2. 異文化に対し興味を持ち、偏見の無い、オープンな態度を育てること。 3. 日常生活の中で、授業で学んだことを意識、あるいは実践してみること。 4. 国内外、特に海外のニュースに目を向け、異なる立場から発せられるメッセージ、そしてその背景を理解できるようになること。
Content	第1回 文化の特徴:見える文化と見えない文化 第2回 文化の特徴:文化とアイデンティティ 第3回 文化の象徴:国旗、国歌、元首 第4回 文化の特徴:お祭り、食文化 第5回 宗教と世界観:仏教 第6回 宗教と世界観:イスラム教 第7回 宗教と世界観:キリスト教 第8回 ケース・スタディ ①(文化とコミュニケーション) 第9回 ケース・スタディ ②(文化とコミュニケーション) 第10回 ケース・スタディ ③(文化とコミュニケーション) 第11回 =中間試験= 第12回 文化と社会制度(自由、権利、義務) 第13回 文化と社会制度(教育、政治、経済) 第14回 民族の対立と融和 第15回 多文化共生への取組
Textbooks	なし
means of Assessment	1. 5回以上欠席の場合、自動的に不可とする。 2. 中間試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点を満点とする。 試験は、エッセイ形式。コミュニケーションや異文化理解の理論と抽象的概念を十分に理解し、それらを用いてある事柄やトピックを説明し、論じ、発展させる力を評価する。 3. 発言、質問、プレゼンテーションなど、積極的なクラス参加は、加点対象とするとともに、授業への貢献度に応じた点数を与える。